



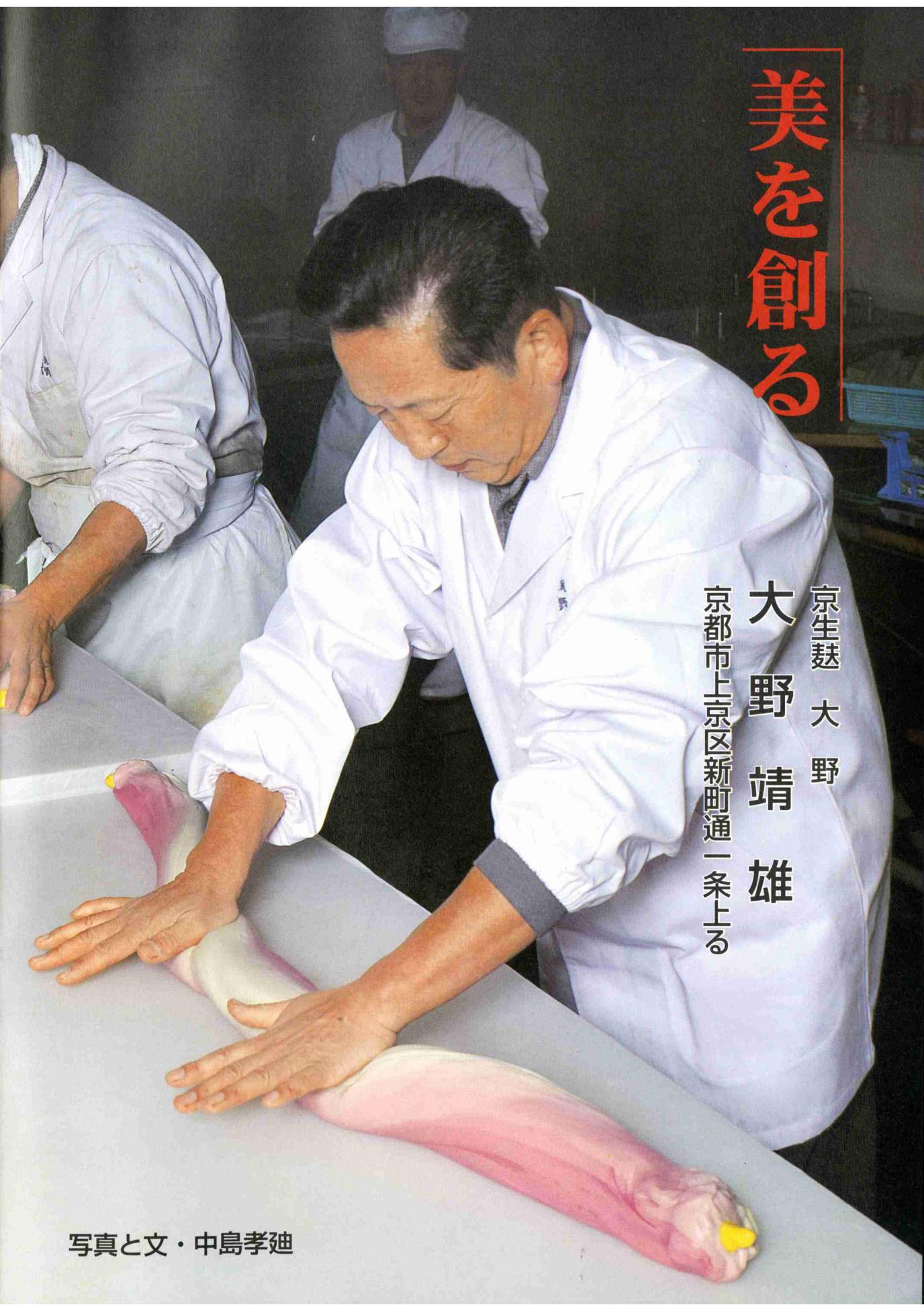
上京 史蹟と文化

美を創る
上京区民薪能
上京区民ふれあいまつり
京都まつり
上京区民シンポジウム
人権月間講演と映画のつどい
史蹟ウォーク・キング
秋の上京茶会
上京クイズ

美を創る

京生麸 大野 靖雄

京都市上京区新町通一条上る



「京の味」を代表するものに、麸、湯葉、豆腐、酒など、多くのものがあげられるが、それらの殆どは水を介在して成り立つてゐる。衆知の如く、京都は古代より加茂川を中心に大小の河川が清流をなし、網の目の如く張り巡らされた地下水脈が良質の水を生み出して「京の味」を育んできた。しかし、近年、高層建築や地下鉄などの建設、また、廃棄物などにより一部に水脈や水質の異変が生じてはいるものの、この天与の水による恩恵は私たちの生活に大きな潤いを与えてくれている。

麸の起源は定かでないが、古来から日本人の食生活には欠くことのできない植物性蛋白質の食材として、寺院の精進料理の材料を始め煮物に、あるいは病人食にと、永い歴史の中で育まれ培われてきた。特に、京都では「麸屋町通り」が示すように、かつてはこの辺りに麸屋が集中し、宮中や武家、寺院や一般家庭など、多くの需要を賄つっていたと思われる。

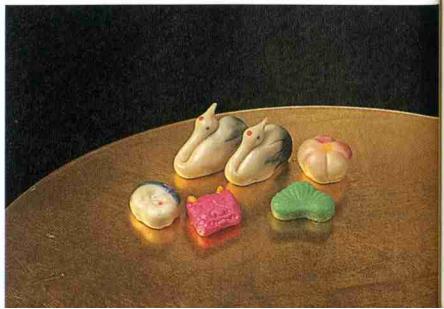
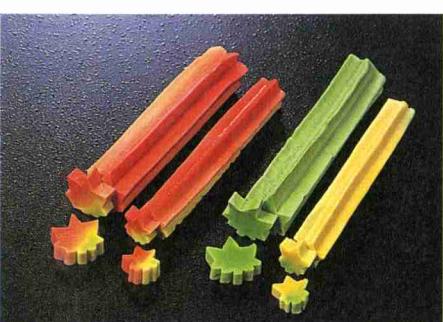
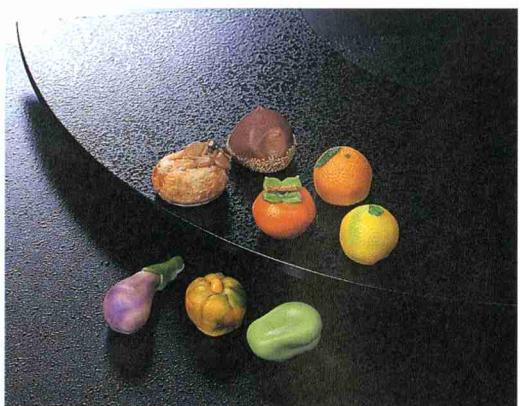
大野靖雄さんは、今年五十八歳。家業は元来牛乳屋であったが、第二次大戦中、父君が応召され、家業が続かなくなつたのを機会に、戦後、中学卒業と同時に「手に職を」と、二条駅前の老舗「麸太」に

奉公、そこで焼麸の製造を習得された。その後、二十四歳で独立、おりから生麸の需要が増大したのに目をつけ、卸し専門の業者として全国に販路を求める生麸の製造に携わつてこられたと聞く。

生麸は、小麦のグルテンに餅粉を加え、よく練つて蒸し上げたもの。このグルテンを採るため小麦を水で練つては洗う作業が二時間余りかかる。この作業には年間を通じて一定の温度を保つ良質の地下水が必要となる。その地下水の良否が「京生麸」の味を決定付けるという。

最近、食生活の変化にともない、多種多様の生麸が創作され「京料理」の食卓を彩り、賑わしているが、それと同時に、各地からの修学旅行生たちが体験学習のために工場を訪れるといわれる。京

の味「京生麸」が今後益々全国的に普及することを期待したい。



上京区民薪能

秋の京の風物詩として親しまれている「第三十四回上京区民薪能」は、あいにくの台風襲来のため会場を白峯神宮から河村能舞台に移して、九月二十一日に行われました。



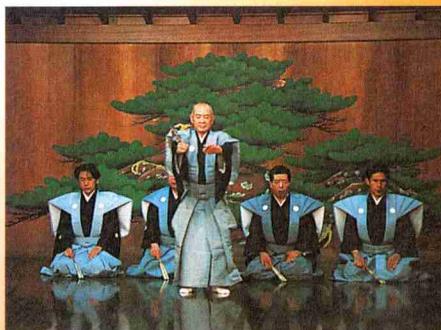
▲舞囃子 養老



▲仕舞 半蔀

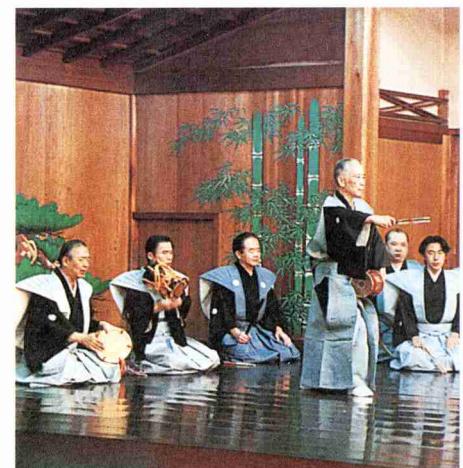


▲仕舞 蕁



▲仕舞 通盛

▼仕舞 花筐



▲舞囃子 花月

▼舞囃子 敦盛



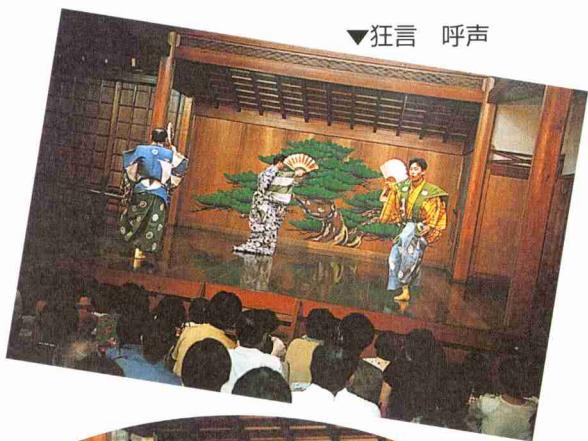
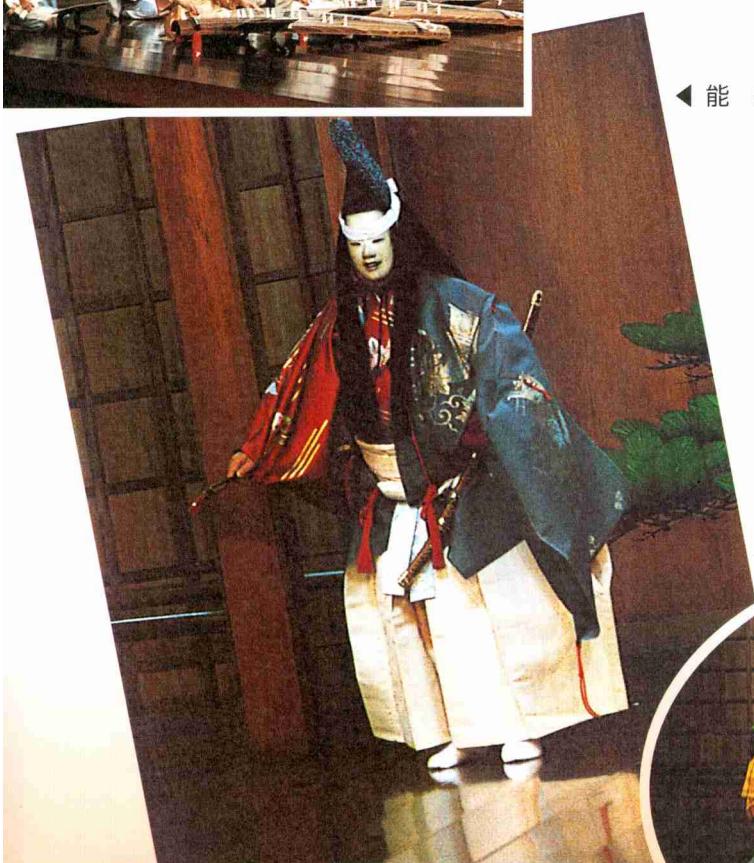
第一部は上京区民による舞囃子や仕舞などが、午後四時から始まり、刻々観客の押し寄せる中、午後六時からの第二部の頃には身動きがないほどの超満員となりました。いちひめ雅楽会による舞楽「萬歳樂」、宮城会の琴演奏、河村隆司師の舞囃子「花月」、茂山正邦師らの狂言「呼声」とつづき、最後に河村和重師による能「経正」をもって五時間余りに及ぶ幽玄の美を魅了しました。

▼琴演奏 宮城会



▲舞楽 萬歳樂

◀能 経正



▼狂言 呼声



第8回

上京区民ふれあいまつり

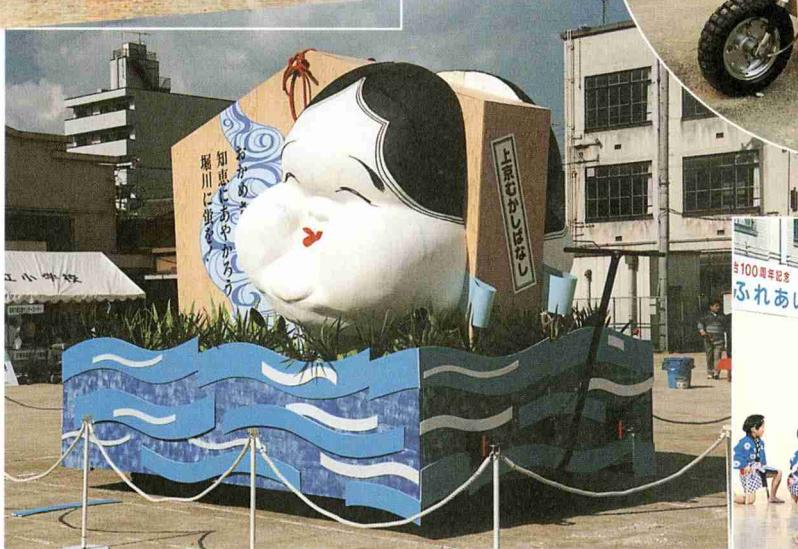
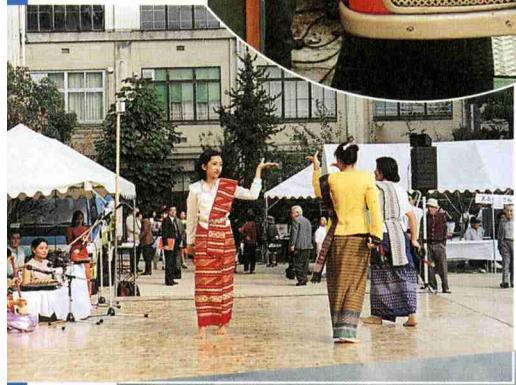
京都まつりの前日祭として恒例の行事となつた第八回上京区民ふれあいまつりは、上京区民ふれあい事業実行委員会の主催で、十月三十一日の午後、元侍賀小学校を会場として七千人の区民が集まつて行われました。

まつりオープニングには、桝本京都市長も姿を見せ、上京区民の手による模擬店や展示、催し物など一つ一つを楽しんでいただきました。ステージでは、観光旅行に訪れたハワイからのお客さまや、和太鼓の演奏、タイの民族

舞踊、京都市少年合唱団の合唱、上京中学校吹奏楽部の演奏など次々とくりひろげられ、大阪猿芸座のらん太と花子による猿まわしを最後に楽しい半日のまつりは終了しました。

老若男女すべての上京区民が楽しめる催しという目的は、年々高まってきました。





京都まつり

年々さかんになりつつある「京都まつり」市民の文化の祭典、「京都まつり」は五回目を迎えた。広々とした御池通を舞台に、十一月一日にくりひろげられました。その中に上京区も区民パレード隊として三百人が参加し、千本糺巡遊の「おかめ像」をテーマとしたフロートを中心に、堀川に蛍をという願いを込めた子どもたちの蛍とお多福の面の扮装に人気が集まりました。

「上京らしさ」をふんだんにアピールしたパレード隊は上京区民の誇りといえましょう。



外科・胃腸科・小児科・整形外科
肛門科・小児外科・泌尿器科・放射線科

吉岡病院

診療時間 午前9時～午後12時半、午後6時～午後8時

土曜 午前9時～午後12時

日曜、祝日、土曜午後 休診

〒602-8462 京都市上京区浄福寺通今出川下る

☎(075) 451-0164

京・上御靈前烏丸西
四四一・〇六一〇代
〇七五

元祖
火
か
ぼたん鍋と
京料理



西陣のいまとこれから



上京区民ふれあい文化大学・区民シンポジウムが、十一月二十八日に、上京区民ふれあい事業実行委員会と上京区役所の主催、上京地域女性連合会の主管で、西陣織会館を会場として行われました。

当日のテーマは「西陣のいまとこれから」。柿野欽吾氏（京都産業大学教授）をコーディネーターに、西陣との縁りが深い方々、市田ひろみ氏（服飾研究家）、渡邊隆夫氏（西陣織工業組合理事長）、北村廣子氏（上京地域女性連合会会长）をパネリストとして活躍なシンポジウムがくりひろげられました。

その中の一部を紙面に再現してみました。

和装関係も元気を出して

—柿野欽吾氏

柿野欽吾氏（京都産業大学教授）をコーディネーターに、西陣との縁りが深い方々、市田ひろみ氏（服飾研究家）、渡邊隆夫氏（西陣織工業組合理事長）、北村廣子氏（上京地域女性連合会会长）をパネリストとして活躍なシンポジウムがくりひろげられました。

西陣といいましても、元気のいいところと、そうでないところもあり、和装でも全體は元気がよくないが、堅実に経営をなさっている業者もあります。いろんな業種のある中で、広巾関係、例えば室内装飾織物・服地・ストールといった分野はむしろ元気で、生産量や金額も伸びています。それでいいのかというわけでなく、和装関係も元気を出してもらわないと、西陣の全体的な士気が高まらないと思います。そして、和装関係をしっかりと立て直しながら、もうひとつは、ネクタイ・服地など広巾関係を伸ばして行くことが、西陣の活性化に

大学に入つてから西陣の研究を始めて長

自分で着付ができる人を

—市田ひろみ氏



私はもう四十年も着物と関わっているんですよ。最初の頃はデパートで着付を見て、おこづかいが貰えるからと喜んでやつてたと思うんですけど、だんだん使命感みたいなものが出てきてねえ。京都では、織紋をする人、染める人、絵を描く人、箔を摺る人、それがどうした人たちの所産であることがだんだんわかってくると、私が語り手にならなければという「思い」「使命感」みたいなものが出てきたように思うのですよ。

着物は自分一人で着られないとおもしろくないのよ。人に着せてもらつたのでは、この嬉しさはわからないと思う。人に着せてもらつたら苦しくても我慢しないといけないでしょう。自分で着ると、自分の手勝手にあつたものが出来上つてきますから苦しくない。最初に成人式の時、人に着せてもらった人は大方がもうかん、あんなし

ただ、日本の文学を支えてきた日本の季節による情緒、これは温暖化の関係で少しきずれきましたね。つまり、日本には昔から衣更というものがあつて五月一杯は袷を着て、六月になつたら单衣を着て、七月一日から薄物を着て、九月一日から单衣を着て、十月一日から袷を着るというのが、いろんな文学の中で季節を投影してきまし

つながらぬのではないかと考えています。

なんどいものやと思わなんだという感想を持つようです。自分が着付できれば、ちょっと着物を着ようかなとか、身近なものになるんじゃないかと思うんです。自分で着付ができるという人を増やすことが和装産業の振興につながると考えていたところへ、室町の問屋の社長さんが私に着物教室の仕事をくださったんです。

着物も世界の民族衣裳と一緒にというと、ここが違うんですよ。というのは、世界の民族衣裳は一年頑張れば自分の指先から衣装が出来上がるんだけど着物や帯というのは、その専門職の人にはゆだねないと出来ないという点がちょっと違う。着物や帯というのは全然別のことにあると思う。そして、なつかつ着物が生き残つたのは、やっぱり街着から晴着、着たい時に着たい年代の人には合う物が提供されている。ですから、そういう点では、世界の民族のワンパターンの衣装からすると、着物はかなりファッショナブルであつて、洋服と同じ感覚で形は変わらないけれど流行というものがあります。

ただ、日本の文学を支えてきた日本の季節による情緒、これは温暖化の関係で少しにくくなっていますね。つまり、日本には昔から衣更というものがあつて五月一杯は袷を着て、六月になつたら单衣を着て、七月一日から薄物を着て、九月一日から单衣を着て、十月一日から袷を着るというのが、いろいろな文学の中で季節を投影してきまし

たよね。これが毀れました。もう私は十月

一杯单衣を着て いますし、五月になつたら单衣を着て います。そうしたら「えつ、いいんですか」という人がいるので「暑いです」といつてあげるのよ。今日暑いなど思えば、自分流にさほど不自然でない形で着物を着たらいんじやないかと思います。

基幹産業である西陣

— 渡邊隆夫氏



都だけが丹後と西陣という巨大な産地をもつていたおかげで持ちこたえていた。全国どこでも業種別で一番多く人を抱えているのは病院です。ところが、京都府の場合、織物業は確かに減って二万人になりましたが、これの関連産業、例えば糸染屋さん、あるいはそれを精練する人、紋紙をつくる人だとか、あるいは着物というカテゴリーでくくつてみると、友禅屋さん、その内職や刺繍屋とか、かつては京都で就業人口の三割は着物産業といわれていたんです。

実は二年前、私が理事長になつた時に知事に頼んだんです。ともかくしゃべる前に「基幹産業である西陣は」というのをつ

けてくれと。不景気や、なんやかんやといつても、知事や市長がそういうふうにいつてみると、くれないとでは、えらい違いです。規制緩和だと今は着物業界でしたらいい。しかし、もうちょっと観点を変えて、いかにこの国が一極集中化に向かつてそれが地域を切り捨てていっているかといふことを、もう一遍思い起こしていただきたいと思います。

着やすいと着られる

— 北村廣子氏



消費者の立場と、文化大学を主管しております女性会という立場から、いろいろ皆さんと話し合いもさせていただきましたし、「このごろ着物つてどう思う」ということを、いろんな方に伺つてしましましたで、その辺をまとめて披露したいと思います。

やはり一番肝心なのは「着物を着ない」とことなんです。今はエアコンで快適な暮らしをしていますから、どこでも薄着です。だけど、この格好でちょっと外へ出ると、やはり足元がものすごく冷えます。そうす

ると、やっぱり寒いわ、スラックス履いて行こう。雨が降つたら後始末が大変やから、もう服で行こうというふうになつてしまいます。また、着物を着ることに大変お金がかかるんです。

それで、年代別にお聞きしたんですが、高齢者の方はほとんど着物を着られないんです。というのは、手が上がらないから帯が結べないと、歩くのに不便ということをおっしゃいます。中年の方に伺うと、日常生活が忙しいんですよ。出かける寸前までなんか用事していく、ほな服で行こうという感じの生活が多いと思うんです。それで若い人ですが、最近Tシャツにズボンというラフな格好で過ごしておられるんで、この人たちも着物なんか全く縁がないのかなあと思つていたんですが、十何年ぶりかで祇園祭の宵山に行きましたところ、なんとたくさんの若い人が浴衣を着てられる。女性だけでなく男性もペアで着て歩いてられる。これはみんな着物嫌いじゃないんだなあといふことがわかつたんです。でもその着方がTシャツの上から浴衣を着てられる。そして下はスニーカーとサンダルなんですよ。そうかと思うとTシャツでスパッツで靴履いて、浴衣を腰に巻いてパーと歩いている。若いい人も着物に対する興味があるんだなあということと、着やすければ、だれでも着るというようなことを感じました。

一方病院は二万六千人になり、三年前は織物業はさらに減つて二万人になつてしまいました。

こういう現象は、北海道から沖縄まで全國どこでも、とうの昔に起つてゐる。京

人権月間 講演と映画のつどい

在日の歴史と人権



京都芸術短期大学
仲尾宏教授

上京区ふれあい事業実行委員会の主催による人権月間の行事の一つとして、講演と映画のつどいが、十二月五日西陣織会館で開催されました。

映画「君に心のバス」の上映に先立ち、京都芸術短期大学の仲尾宏教授によって「在日の歴史と人権」という講演会がありました。その一部を紹介して当日の雰囲気を感じていただきたいと思います。

一昔前まで「外人さん」という言葉がありました。今でも使われていると思います。プロ野球でも最近は「外国人選手」と変わってきていますが、これは時代の流れというよりは、私たちの意識の中での一つの変化ではなからうか、と申しますのは「外人さん」という言葉を聞くと、やはり金髪・青い目・背が高いという欧米系の人のイメージです。ところが近年そういうことも、アジア系の選手がどんどん入っていませんね。そうなってくると、今までのイメージでの「外人さん」では合わなくなってしまいます。

地元では外国籍住民の方がどれくらいおられるかというと、上京区は一六六七人です。市全体の行政区からしますと、一番多いのは南区で、次いで右京区となります。上京区はそれほど多くはございません。このうち韓国・朝鮮籍である方は一二三七人ということ

になります。だから上京区でも全体の七割近くが在日の方であるということになります。過去には西陣地区にたくさんの方が住んでおられたことがわかつております。その方々の仕事は、やはり染色と織物ですね。染めの方では晒し、あるいは蒸し、撚糸、鹿の子絞りだつたのです。直接織物に携わつておられた方は、だいだい貯機ですね。織機を借りて機を織る出来高払いです。ですから朝の六時、七時から起きて機にかじりついて夜の八時、九時、十時までやつて、ちょっとでも多くの仕事をしてたくさん給料をもらつて送金する、あるいは家族を呼び寄せる、そういう形で頑張つてこられた方が非常に多かつたようと思われます。

まとめとして、私は次の五点を大事なこととと思っております。第一点は外国籍ばかりを強調するのは間違っていることと、私は次の五点を大事なことと思つております。第一点は外史的経緯を知ろうということ。第四点は文化の違いを認めること。第五点は「差別を見ようとしない者には見えない」

になります。だから上京区でも全体の七割近くが在日の方であるということになります。過去には西陣地区にたくさんの方が住んでおられたことがわかつております。その方々の仕事は、やはり染色と織物ですね。染めの方では晒し、あるいは蒸し、撚糸、鹿の子絞りだつたのです。直接織物に携わつておられた方は、だいだい貯機ですね。織機を借りて機を織る出来高払いです。ですから朝の六時、七時から起きて機にかじりついて夜の八時、九時、十時までやつて、ちょっとでも多くの仕事をしてたくさん給料をもらつて送金する、あるいは家族を呼び寄せる、そういう形で頑張つてこられた方が非常に多かつたようと思われます。

まとめとして、私は次の五点を大事なことと思つております。第一点は外国籍ばかりを強調するのは間違っていることと、私は次の五点を大事なことと思つております。第一点は外史的経緯を知ろうということ。第四点は文化の違いを認めること。第五点は「差別を見ようとしない者には見えない」

ガーデニング教室開催

十一月十九日午後二時から上京区役所で開催され、約五十名の参加者は講師の田中昭氏のお話をす

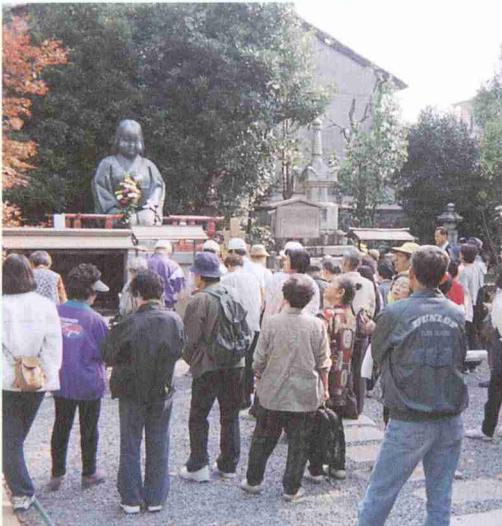
メモに取つたり、熱心に質問をするなど、会場は熱氣で一杯でした。講義の後自分達でそれぞれフラワー ポットに苗を植えました。



第8回 ふれあい史蹟ウォーキング

恒例の「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」も八回を数え、ほぼ上京区全域を歩き通し、集合地点のポイントも二十五カ所になりました。

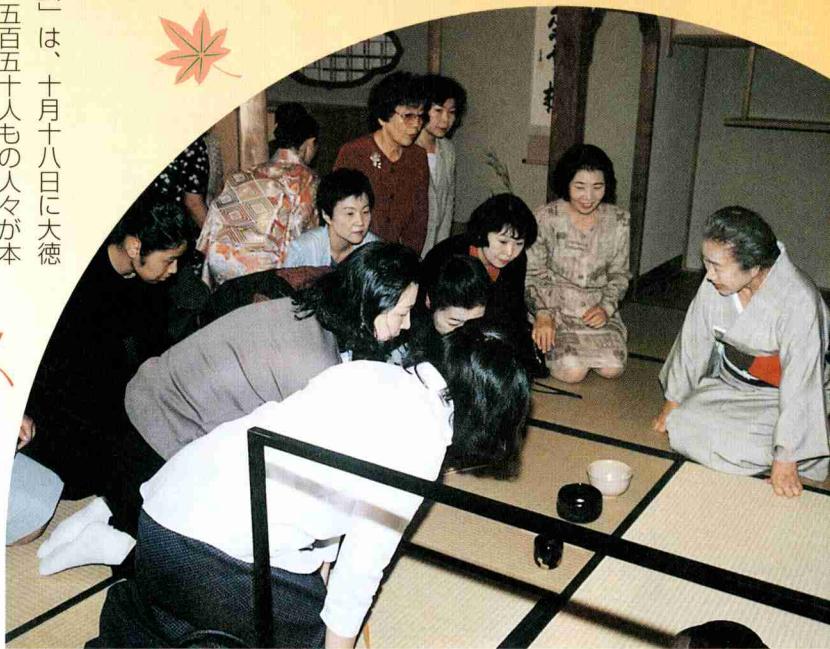
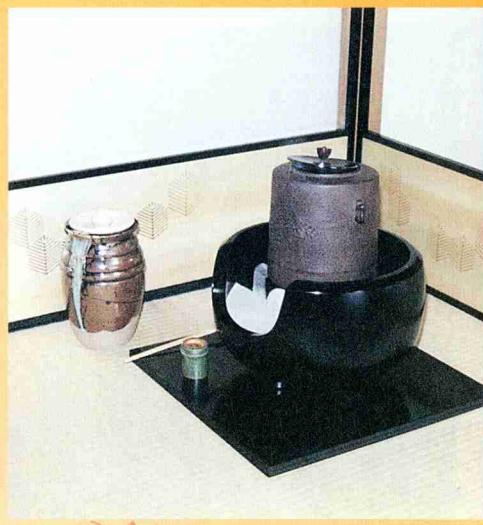
今回は十一月十五日(土)一百五十人の参加者を得て、上京区の東北部の千本閻魔堂(引接寺)、本隆寺、千本釈迦堂(大報恩寺)の三カ所を集合地とし北野天満宮の境内や御土居の脇を通り抜けながら、ガイドマップに従つて四キロ余りを歩き通します。



秋の上京茶会



上京区文化振興会四十周年を記念する秋の「上京茶会」は、十月十八日に大徳寺山内總見院において催されました。裏千家の懸釜で、五百五十人もの人々が本席・副席のお茶を楽しみました。



会記

待合床 香林和尚筆 木守画贊
本席

床 鵬雲齋御家元筆 嶺上閑雲去來
花 女莉萱 貴船菊 蕎麦 深山杜鵑 星月夜
花入 鵬雲齋御家元箱 美濃伊賀 利茶土造
香合 根来菊 治兵衛作
金筒釜 与齋造

風炉 黒道安風炉 宗元造
火入 鵬雲齋御家元好 潶紋 吉兵衛作

敷板 大板
水指 鵬雲齋御家元箱 朝鮮唐津 古曾部造
薄器 鵬雲齋御家元箱 六瓢 駒沢徹作
茶杓 鵬雲齋御家元作 銘謝茶
茶碗 鵬雲齋御家元箱 黒銘山里

替 鵬雲齋御家元箱 九代大樋造
唐津砥草絵 中里重利造

蓋置 半枯竹
建水 色絵 即全造
茶 松清の白 辻利詰
菓子 栗 老松製
器 千段巻鉢 朝日焼
煙草盆 桑桐透 表完作
火入 黄瀬戸

上京クイズ

前回の正解は

京都御苑九条池の石鳥居



「上京区の史蹟百選」を 刊行



?これはどう??

○正解者の中から抽籤にて二十名の方に記念品をお送りします。

- 締切 平成十一年三月十五日
○正解と住所・学区・氏名・電話番号を記入の上
〒六〇二・八五一 京都市上京区
今出川通室町西入 上京区役所
地域振興課「上京・史蹟と文化」
宛てにハガキでお送り下さい。また本誌の読後感もお書き下さい。

編集後記

京都御苑の西南方、九条池のはとりにある嚴島神社の石鳥居は、笠石が唐破風になつた京都三珍鳥居の一つです。嚴島神社は明治以前は五摂家の一つ九条家の邸内社で、池もそのほとりにある拾翠亭も屋敷の内にありました。この鳥居は平清盛が安芸の嚴島神社に奉納したものという伝えもありますが、今では室町時代の作とされており重要美術品に認定されています。

▽上京クイズも好評ですが、解答にお寄せいただく一言は、正答・誤答にかかわらず、編集子の励みとして、編集に生かしております。(い)

▽本誌の創刊号を平成三年に発刊してから八年、十六号を迎えました。試行錯誤をくりかえしながら、年二回、上京区民の文化とのかわりを主題に、区内民の中に定着してきましたようです。

▽今号は秋の行事が非常に多かつたために、それらを集成しました。そのため、連載中の「上京の史蹟」を休ませていただきました。

▽上京クイズも好評ですが、解答にお寄せいただく一言は、正答・誤答にかかわらず、編集子の励みとして、編集に生かしております。(い)

永年の信用と実績・真心のこもったご奉仕

葬祭センター

京都 公益社

本 社 京都市中京区烏丸三条下ル ☎(075)221-4000代 ●葬儀式場

堀川公益社 京都市中京区堀川通六角 ☎(075)241-4440代 公益社プライトホール／京都市東山区五条通大和大路 ☎(075)551-5555代

中 公 益 社 京都市東山区五条通東大路東入 ☎(075)561-0042代 公益社横島会館／宇治市横島町（文教大学前） ☎(0774)20-0142代

南 公 益 社 宇治市横島町（文教大学前） ☎(0774)20-0042代 公益社滋賀会館／大津市朝日が丘1丁目 ☎(077)523-0042代

京都市自治百周年の記念事業として上京区では本誌の別冊「上京区の史蹟百選」を刊行します。上京区には指定・登録文化財が六十カ所ほどあります。そのうち案内を乞わなくとも見られる文化財は三十カ所にも及びます。百周年に因んで百ヵ所を選び・写真と文で小冊子にまとめあげます。

四月頃には上京区の全世帯に配付いたします。おそらく初めての企画と思ひますので御期待ください。

前回の正解は

和菓子には、日本のこころが生きています。



和菓子につけられた、美しい響きの菓銘には季節に因んだものが多くあります。

季節が変わると、ひとつの景色さえ表情を変える。

その豊かさこそが、日本の美意識をつくるのではないでしょか。

和菓子の中には、繊細な日本のこころが生きています。そのこころを、これからも守り つたえてまいります。

写真は現在使用しております「平成のお通箱」(御所にお菓子をお納めする箱)
でございます。

御菓子司
どらや

京都／一条店 京都市上京区烏丸通一条角

☎(075)441-3111

東京 パリ ニューヨーク